



國家圖書館 編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

118



國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

118

第一一八冊目錄

昭和四年（一九二九）調查報告（第二十六期生）

廣東に於ける勞動組合及び勞動運動

廣東的工會及勞工運動

北滿に於ける出稼に就て

關於北滿的外來勞工

京綏沿線ニ於ケル都市市勢調査

京綏沿線的城市情況調査

滿洲に於ける大豆の品種

滿洲的大豆品種

石田七郎

第四十三卷

.....

一

川瀨徳男

第四十四卷

.....

一三七

佐多直丸

第四十五卷

.....

二一七

村松彰

第四十六卷

.....

三一九

打通線ニ關スル調査

關於打通線の調査

吳鷹之助

第四十七卷

.....

三九一

佛領印度支那と雲南省との政治的關係

法屬印度支那與雲南省的政治關係

法林一磨

第四十八卷

.....

四六五

最近北平に於ける下層社會の主なる金融機關と社會施設

近來北平下層社會的主要金融機構和社會設施

萩原藏六

第四十九卷

.....

六〇七

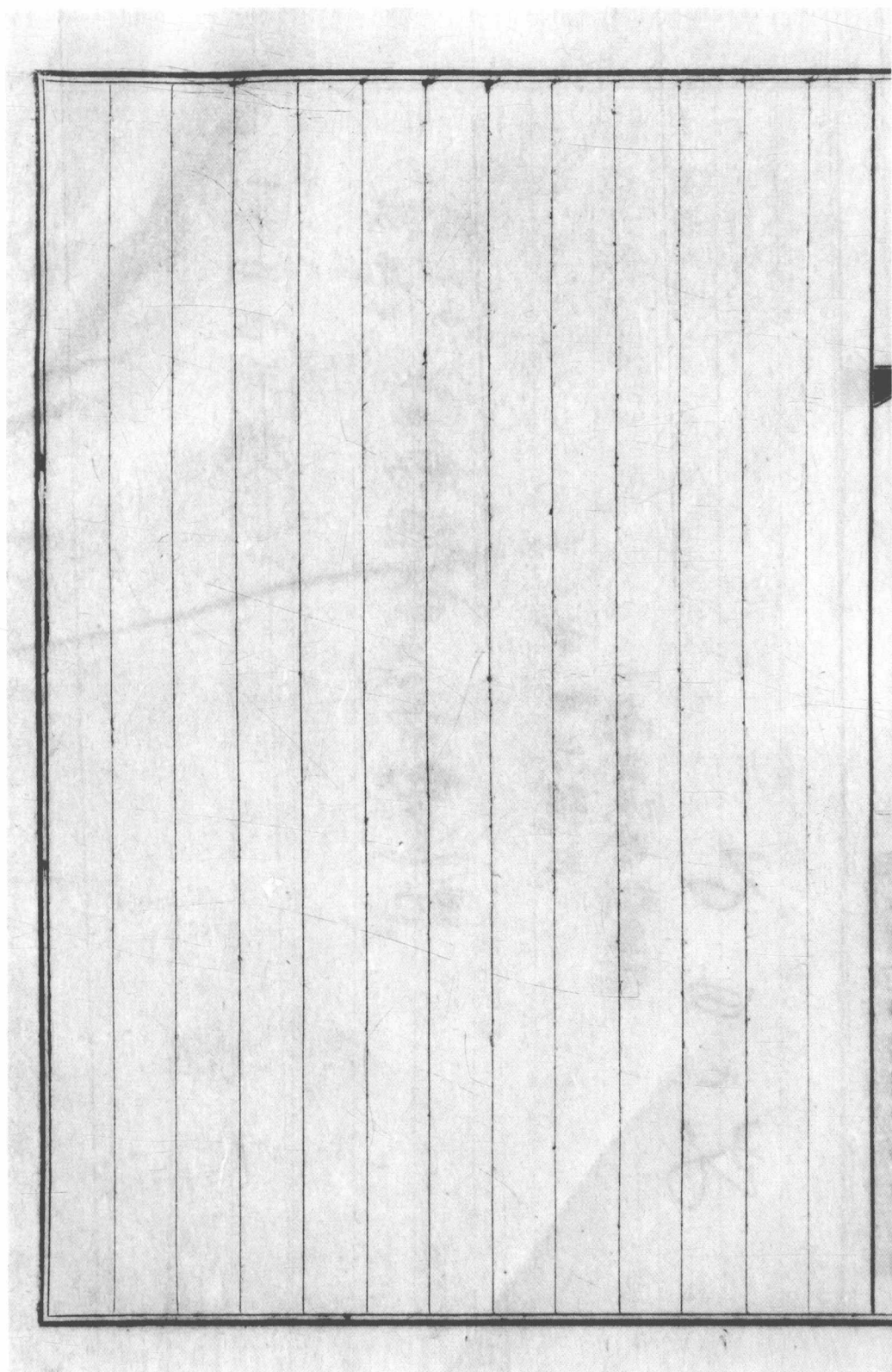
一九二九年度

広東に
於ける労働組合及び労働運動

中世二期生

南支港務調査班

石田七郎



參考文獻一束

長田 朗

「支那労働問題」

阿公博「中口と民衆所代表的是什么」

・ 支那労働問題

高爾松「労働問題」

宇高 寧

「支那労働問題」

易培基「工運之回顧と前瞻」

伊原 武雄

「現代支那社会研究」

朱新繁「中口資本主義之発展」

大田 豊男

「支那革命の将来」

アジアカス

「広東から上海へ」

其他 雜誌、新聞等

光華書局

「中口労働問題」

馬超俊

「中国劳工問題」

高爾松

「工会研究」

阿支 琴

「工会組織法及工務糾紛系列」

阿公博

「口民革命の危機と我々の錯誤」

六、ニ於生學動植合スル勞働運動
目次

廣

第一章 労働組合の発達

第一節 近代の組合とその発展の経緯

市一項 幫中概說

才二項
邦制、崩壞

第三節 労働組合の盛衰時代

第三節 勞働組合・勤勞時代

第四節 獎勵令・合同時代

第五節 常備組合。統一時代。

第一項 國民黨派、共產黨、青年會

才三項
日本電氣株式會社
工會

二八

一六

16.

11

九

七

五

1

一

—

第二章

労働組合の現況

三二

第一節 共産党暴動以前の状況

三二

第二節 共産党暴動中に於ける工会の状況

三八

第一項 赤衛軍の工会に対する宣言

三八

第二項 赤衛軍に会合せしむる工会

三九

第三項 赤衛軍の敗退と反動派工会解散の命令

四〇

第四項 省工廳の對工会政策

四一

第二節 共産党暴動後に於ける工会状況

四二

第一項 左派政府の極端な右傾化

四七

第二項 降起後に於けるC.P.活動状況

五〇

第三項 結論

五五

第三章

労働組合の内容

五七

第一節 概説

五七

才一項 幫口利或組合。內容。

五七

才二項 近代的組合。內容。

五七

才二節 組合組織。現況

五八

才三節 一工會，組織內容（廣州市店員工會章程）

五九

才四章 勞働組合法案

六五

才一節 勞働立法運動

六五

才一項 全口勞働會議

六五

才二項 勞働立法運動

六八

才二節 廣東政府，工會條例

七〇

才五章 勞働組合。工人，生活狀況

七七

才一節 農工戶廣州工人生活負擔表作成計劃

七七

才一項 生活困難解決。前提

七七

才二項 生活負擔。意義

七八

第三項、元州工人生活費指為表作成、必要

八九

第四項、工人生活費指為、効果

八〇

第五項、元州工人生活費指為表作成、困難

八一

第六項、作成方法

八二

第二節、元州工人生活程度

八三

第一項、所公好、統計の一列

八四

第二項、苦力、生活程度

八五

第三節、元州に於ける工人賃銀

八六

第一項、元州、東東公司、統計

八七

第二項、元州、鐵路工人、工資

八八

第三項、元州、代辦所賃指為と工資指為と比較

八九

第六章、工會に於ける工人失業状況

九〇

第一節、概説

九一

第二章 広州工人失業統計

第一項 一九二六年一月七日 農工庁統計

調査

第二項 一九二八年二月一九日 広東省天字勝人云統計

第三項 結語

第七章 広東に於ける労働運動小史

第一節 緒論

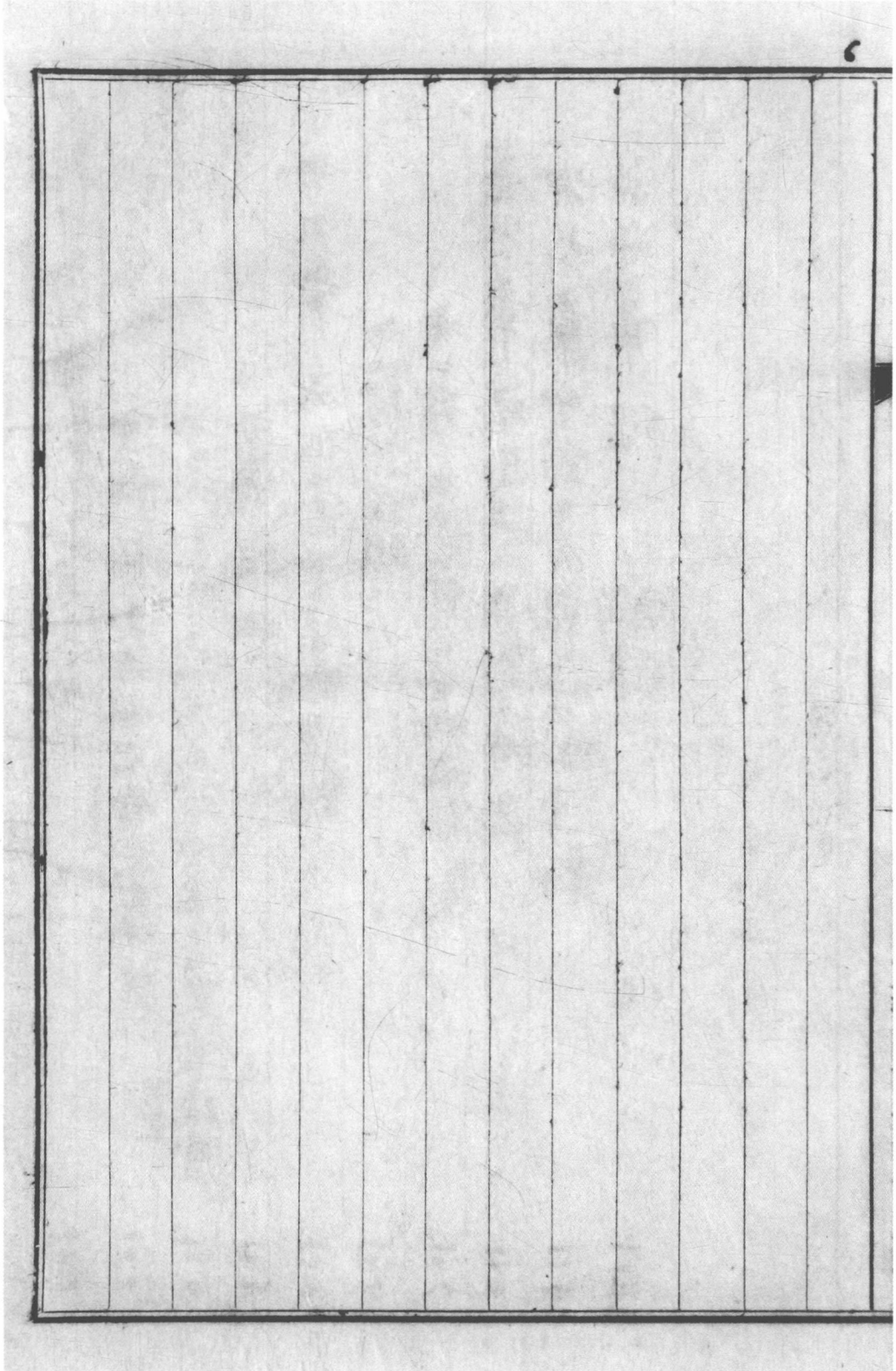
第二節 広東に於ける労働運動小史

第八章 広東工人運動の特色

第九章 中国の民衆と労働運動

第十章 結語

— 以上 —





広東に於ける労働組合及労働運動

第一章 労働組合の発達

第一节 近代の組合と其の発展

一、項 概説

労働組合は資本主義社会の存在を前提とし、其の発展は資本主義社会の発展に伴ふものである。

支那に於ける労働組合は近世資本主義の侵入による旧式手工業、即ち帮口制、前哨に始まる。私に先づ帮口制に就て概説するであらう。

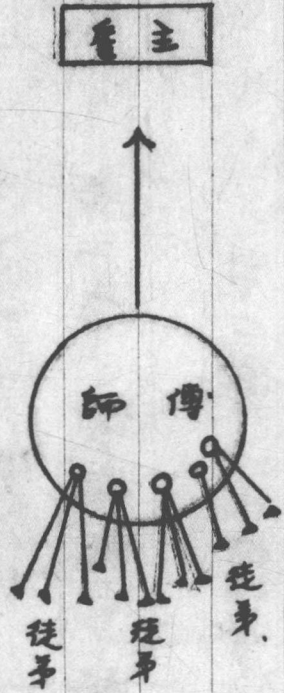
「支那百次から帮口制（又ハ行政制）と云ふ一種の労働組合、形式上はあった、其の帮口制は今日、労働組合とは本質的に異なり、労働者自身の問題に限る、その階級

2

的、觀念は全く金まゝであつた。陳啓修氏は、**幫**を手工幫、**概畧幫**、**地方幫**の三つに分けてゐる。

A. 手工幫、その組織、要點次の如し。

- 一、團結は師傅を以て單位とし、更に下して徒弟は全く數えず、故に之を師傅、結合と云ふ。
- 二、團結は舊主を以て對象とす。
- 三、團結は師傅を以て對象とす。
- 四、團結は師傅を以て對象とす。
- 五、團結は師傅を以て對象とす。
- 六、團結は師傅を以て對象とす。
- 七、團結は師傅を以て對象とす。
- 八、團結は師傅を以て對象とす。
- 九、團結は師傅を以て對象とす。
- 十、團結は師傅を以て對象とす。



B. 概畧工人幫、その組織、要點次の如し。

- 一、同業、或は同郷の關係を以て團結、要點とす。